

## 発刊にあたり

青森県漁業士会会長 山口 隆治

私達青森県漁業士は昭和61年に第1期生を皮切りに132名の会員に成り、今回の認定で更に会員が増える予定であります。会を発足してから10年目に成りました。当時は工藤前会長さん始め役員の方々には大変ご苦労様でした。浜風発刊の紙面をおかりして心から御礼を申し上げます。我々現役員も増養殖や養殖を基本とした21世紀の一次産業を守るために、会員ともども努力してまいりたいと思っておりますので、なにとぞよろしく御願い申し上げます。

又、会員の皆様にはこの浜風は、年2回ぐらい出す予定でありますので、行政・役員の情報ばかりではなく、会員の皆様の御意見・御感想もどしどしのせて会の発展につなげて行きたいと思いますので何とぞよろしく御願い申し上げます。

## 浜のリーダーたちへ

県水産部長 佐藤立治



本県水産業は、国民・県民への水産物の安定的供給という使命を担っていると同時に県土の均衡ある発展、地域社会に於ける経済の活性化という観点からも重要な役割を果たしております。また、本県は古来より、地理的条件としても世界有数の漁場である三陸漁場や北海道東部沖合漁場にも近く、県民性としても水産物への志向には極めて根強いものがあり、こうしたことからも本県水産業の振興は不可欠なものとなっております。

しかるに、本県水産業をめぐる諸情勢に目を転じますと、周辺水域特に磯資源の減少傾向による漁業生産の減少、漁業就業者の一層の高齢化・漁業の担い手の減少など、極めて厳しい状況にあると申せます。

こうした状況の下、国に於ける新海洋秩序下でのTAC制度の本県でのスタート（1997年）があり、これとともに、本県水産業も新たな時代の幕開けを迎えたところであります。

即ち国に於いては、国連海洋法条約の締結にあわせて排他的経済水域を設定し、同水域に於ける資源管理の徹底を期する為、TAC制度を導入したところですが、本制度の的確な運用なくして今後の我が国の水産業の展開は図り得ず、本県の場合も沿岸漁業、養殖業、沖合漁業の夫々にあって、二百海里体制下の操業条件の整備とこれによる新たな二百海里時代の水産業の構築が最重要課題となっているところであります。

特に本県の場合、沿岸沖合漁業については、漁場の整備、資源管理型漁業の積極的な展開、栽培漁業の一層の推進等により、従来以上に資源の持続的利用増大を図っていくことは不可欠であります。併せて、漁場環境の保全、産業と自然との調和が大きく浮かび上がって参っております。

この機にあたりまして、昭和61年漁業士育成事業によりスタートした青年漁業士ならびに指導漁業士各位が、今後の地域漁業の担い手を指導・支援するための機関紙「浜風」をともに手をとりあって、ここに発刊することはまことに意義深いものであり、心よりお祝い申し上げる次第であります。

## 平成10年度 行事予定

3月	2月	1月	9月	7月	6月
者交流大会	遣 「浜風」No.2発行	農業士との交流会	漁村青年女性団体	生産者による豊漁・	平成10年度総会
全国青年・女性漁業	海洋学院への講師派	水産部と語る会	県漁業士会10周年記念式典	ク漁業士研修会	森と海のフェスティバル(青森)
			交付式	青年漁業士講座	東北・北海道ブロック
			青年漁業士等認定証	豊作祈願祭(むつ支 部)	

## □総会報告□

平成10年度青森県漁業士会総会が、5月19日（火）午後1時30分より青森市アラスカ会館において、会員58名、他市町村、漁協、県関係者を含め約110名の出席のもと盛大に開催され、全議案が原案通り可決されました。

今回の総会では、県漁業士会の役員には指導漁業士が選出されるケースが多いため、青年漁業士の声を県漁業士会役員会に反映させようと、副会長を2名とし、1名は青年漁業士が就くことに会則を改正しました。そして、その後に行われた役員の改選では、6人の新任の役員を迎えることができました。（最終頁に紹介）

また、今年度からは県漁業士会の活動が認められ、県から補助金を受けることとなったため、これまで以上に、地域イベントやセミナーを開催するとともに、他県の漁業士とも交流の機会を増やし情報交換に努め、地域漁業者のリーダーとなるべく地域漁業・漁村の活性化に努力しようとの決意を固め閉会しました。

夜には、お決まりの懇親会が開かれ、日頃話す機会の少ない他地域の漁業士や県関係者と話し込む姿があちこちに見られ、時間も忘れるほどの賑やかな宴会が繰り広げられました。



# 第1回 森と海の フェスティバル

平成10年6月21日、青森市安方のベイブリッジ下において、林業・漁業関係者の相互理解を深め、“森と海のつながり”を一般の人にも知つてもらおうと「第1回森と海のフェスティバル」が開催されました。

このイベントは、昨年青森県漁業士会の東青

支部と青森県グリーンマイスター協議会とで共同開催したものが、今年度から県の事業となり、県漁業士会も主催者の一人となったものです。

イベント当日は、好天にも恵まれ、開会から大勢の家族づれで賑わい、3千人を超える来場者を迎えることができました。

水産関係の紹介をすると、産直販売コ

ーナーでは、活ホタテ、ヒラメ・マダイの活魚類、イカナゴ干物等を浜値相当で販売し、閉会前に売り切れる程好評でした。また、釣り堀コーナーやふれあいコーナーでは、水槽を大勢の子供たちが取り囲み、目を輝かせ歓声をあげていました。そして、無料ホタテ炭火焼コーナーでは、試食用のホタテが品切れとなるまで試食をする人で溢れ、イベントの集客に大いに役立っていました。

青森市開催ということで、企画・運営をはじめ全てを東青支部の漁業士の皆様に頑張っていただきました。お疲れさまでした。



## 専技コーナー

### 本誌の役割について

水産業専門技術員

早川 豊

現在、県漁業士会には132名(青年漁業士75名、指導漁業士57名)の漁業士が在籍し、県内各地域で活躍しています。本誌では漁業士の皆さんのが活動状況・体験談・意見を紹介したり、県内外の浜の情報、新技術等役に立つ情報を掲載していく予定です。また、漁業士の皆さんのが活躍を広く知つてもらうため配布先は各方面にと考えております。本誌に楽しい記事を載せるためには、地域を熟知している漁業士さんの参画・協力が絶対に必要です。事務局では各支部の記者を募集しますので自薦・他薦よろしくお願いします。

本誌の役割は漁業士の存在を広く知つてもらうこと、漁業士間の連携を強めることですが、事務局の最大の目的は眠れる漁業士を動かす起爆剤にできたらと願っています。

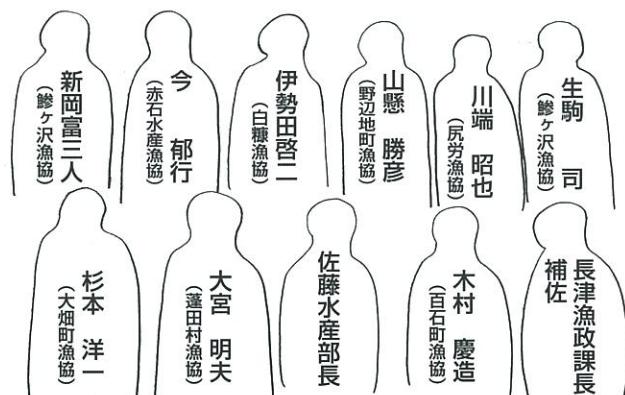
## 青年漁業士講座

平成10年7月28日～31日の4日間、青森市の青森港湾労働者福祉センターにおいて「平成10年度青森県青年漁業士講座」が5年ぶりに開催されました。

受講生は、24歳の若者を先頭に、三八地区1名、下北地区4名、青森地区1名、日本海地区3名の計9人で、全員が寝食を共に4日間過ごしました。

昼間の研修は、県の取り組みや漁業を取り巻く現状等難しく肩のこるような内容のものが多くたものの、夜は青森の歓楽街がすぐ近くとあって元気な人達は、毎晩出掛けていると聞いています。それでも昼間の講義中に居眠りする人はなく、皆さんの意気込みを感じられました。

12月に行われる認定委員会で全員が晴れて漁業士の仲間入りをされる日を楽しみにしています。



# 支部とひつくる

## 日本海支部

- 1) 会員：南から、中村利男、石沢英雄、神馬達雄、斎藤光秋、舟木康彦、山下幸彦、根上定男、今弘樹、石岡清美、八木沢健一、小山内実、斎藤幸市、村上秀雄、小倉広起、須々田誠政の15名（来年は3名増員予定）。
- 2) 予算：15会員×@15,000.12漁協×@10,000～5,000、6町村×@20,000の合計45万円+α。
- 3) 平成10年度総会で話し合った主な内容：
  - ①支部管内の旅費・日当は原則としてカットする
  - ②漁村青年協議会との交流を図る
  - ③海洋学院の講師を積極的に引き受ける
- 4) 会員相互の理解を深める工夫：県・支部の事業、会議内容を関係者（15会員、12漁協、6町村）できるだけ早く・詳しく知らせ、情報の共有化を図る。平成10年度は、8月20日現在  
No1「漁業士募集及び平成10年度の普及員の配置」他について、  
No2「平成10年度漁業士会通常総会」及び「緑の船事業」他について、  
No3「普及所だより日本海第1号」及び「水産だより148号」他について、  
No4「平成10年度青森県漁業士会通常総会の結果」他について、  
No5「平成10年度青森県青年漁業士講座の開催」他について、  
No6「平成10年度青森県漁業士会日本海支部総会の開催」他について、  
No7「平成10年度青森県漁業士会日本海支部総会」他について、  
No8「平成10年度日本海支部会会費納入」及び「平成10年度青森県漁業士会第1回役員会の結果」他について、  
の情報を適宜関係者に流しています（事務局）。

## むつ支部

- 9月6日(日)むつ市まさかりプラザイベント広場において、第5回「豊漁・豊作祈願祭」が好天のもと盛大に開催されました。イベントに先立って行われた式典では、青森県水産部長はじめ、むつ下北地区の各漁業協同組合長他、多数の関係者と漁業士と農業士が参加し、豊漁豊作のための神事が行われました。
- 「豊漁・豊作祈願祭」では、新鮮な野菜や魚介類の即売、もちつきやちゃんちゃん焼きの無料試食、会場内が一体化したbingoゲーム、また野菜・魚介類のオーバークションの他、楽しい歌謡ショーも行われ、数多くのお客様で会場は大盛況でした。
- また、同時に開催した AML S 協議会による海難遺児募金活動や、青森県漁場監視団連合会による密漁防止キャンペーンなど、この「豊漁・豊作祈願祭」を通じて私達の活動をむつ下北地域の方々に広く知らせることができました。
- ご協力をいただいた関係者の皆様方の温かい支援に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

## 三八支部

海中造林によるウニ身入り向上  
南浜漁協白浜部会（代表・荒木田指導漁業士）ではウニの生産向上のため、今年も海中造林コンブ・ワカメを漁場投入し、ウニに食べさせるという取り組みが行われています。こうした取り組みは階上漁協大蛇部会、追越部会でも行われています。



### 三八漁業士会総会

三八漁業士会総会が6月10日に開催されました。今回は今年度の活動計画などの議題が中心でしたが、漁獲物の価格向上のために漁業者はどう取り組むべきか等についても積極的な討議が行われました。



## 東青支部

### 「地球環境保全の森」記念植樹

東青漁業士会では去る5月23日（土）に青森市後潟の国有林において開催された「地球環境保全の森」記念植樹に参画し、植樹を行った。

青森県緑化推進委員会の主催で開催されたこの植樹の目的は、地球温暖化などに伴い環境の保全が大きな問題となり、次代を担う漁業、林業の両後継者が共に記念植樹を行い、森林、緑化に対する理解を深めてもらうことであった。

当日は晴天の下、当漁業士会と青森県グリーン・マイスター協議会（葛西理事長）、また両会の家族も参加し笑い声が響く中、普段は山中に足を踏み入れることのない会員も額に汗を浮かべ約1時間ほどで0.2haに約500本の広葉樹（クリ、ミズナラ）を植えた。

終了後、昼食にホタテの貝焼きや豚汁が用意され参加者は満腹になるとタケノコ、ミズを採り、営林署職員から薬用植物や森林の働きについて説明を受けながら付近の散策をした。今回植林したこの山の100年後が楽しみである。



# 新役員紹介



副会長 福田 隆一 (平内町漁協)

漁業士の認定を受けて10年を過ぎましたが、未だ漁協に必要とされていないのが残念でなりません。私達の努力も足りませんが、私はその存在を認めてもらうために今から漁業をやめた時にやっぱり漁業士だったんだなあと言われるように努力しております。



会長 山口 隆治 (後潟漁協)

漁業士として認められるよう努力して事業にはげみましょう。



新任

副会長 金田一善唯 (易国間漁協)

小型定置網をやっています。私は研究会活動として、みんなが豊かに生活できる漁業を目指して、コンブ・アワビ・ウニの養殖に取り組んでいます。若輩の私ですが、これからよろしくお願いします。



理事 奥川 三治 (関根浜漁協)

関根浜の奥川です。底建やってます。よろしく。



新任

理事 坂岡 政彦 (三沢漁協)

浜風発刊誠におめでとうございます。私はおもに、昼イカ釣りを行っています。県総会など出席できぬこと多數ですが浜風が、漁業士会の良き連絡窓口になる事を期待します。



新任

監事 小笠原清春 (尻労漁協)

むつ支部会2月の改選総会で大きな功績を残した川端会長の後を継ぐことになりました。精一杯頑張るつもりでおりますので前会長同様御支援たのみます。

尻労に寄る事がありましたら声をかけて下さい。何かいい事があるかも?



監事 小山内 実 (鰯ヶ沢漁協)

冬はヤリイカ、夏は平目の底建網をしている。時間に少し余裕があるので漁業士の会合に出席する。様々な人の話しが聞ける、話せる。これがとても楽しい。



新任

理事 荒木田政信 (南浜漁協)

毎日の仕事は二つある。一つは、朝4時から刺網漁の楽しみ、二つは、児童館へ出勤、漁業士の活動、交流会には数多くの参加を勧んで希望する。



理事 根上 定男 (大戸瀬漁協)

私は底建網漁業を主体に営む専業漁家です。県内各地区の漁業士達と積極的に意見、情報交換を行い、漁協、市町村の水産関係者の御指導を頂きながら、漁業経営の安定を目指して行きたいと思います。



新任

理事 畠中 道安 (むつ市漁協)

日本国民のみな様もっとホタテを食べよう。もっと魚を食べよう。



新任

監事 船橋 正彦 (平内町漁協)

今年度県漁業士会の役員に選任されました。今後は、漁業士会の発展と漁業の振興に努めてまいりたいと思っておりますので宜しくお願いします。



## 編集後記

皆さんのご協力により無事第1号を発刊することができました。次号からはより一層漁業士の方々の情報を取り入れていきたいと思います。各地の特派員のあなた、情報をお待ちしています。

連絡先：むつ支部 0175-22-8626

三八支部 0178-27-5858

東青支部 0177-74-0772

日本海支部 0173-72-4300

県本部 0177-34-9587